

重点施策 地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実				評価実施者		所 属	社会教育課
				職・氏名		課長	景由隆寛

重点施策の概要	目 的	学校、家庭、地域が協力して子どもを育てる体制を整えるため、学校の教育活動における地域との関わりを深めるとともに、家庭や地域での生活を円満で健全に過ごすことができるよう支援します。					
	今年度の主要事業	学校支援地域本部事業の充実(継続 ※平成26年度より社会教育課が担当)					

事業の目標と実績	区 分		単位	H24	H25	H26	特記事項	
	1	学校支援地域本部事業によるボランティア参加者の延べ人数	目標	人	—	729人		729人
		実績		679人	282人	573人		
	2	学校要望件数と実施件数	目標	件	—	—		—
		実績		39/47	37/45	42/46		
	3	同上実施割合	目標	%	—	—		—
		実績		83.0	82.2	91.3		
	4		目標					
実績								

事業の分析効果の検証	学校支援地域本部事業の充実・・・学校の教育活動に地域のみなさんがボランティアとして参画し、技術や技能を教育現場に提供していただいた。支援を通じて地域のみなさんと子どもたち及び教職員とが知り合うきっかけとなった。 主な支援内容→水泳学習授業、スキー学習授業、夏休み学習相談、田植え等稲作体験、部活支援等
課題	学校支援地域本部事業・・・支援する時間帯がどうしても昼間の授業時間となり、一般的な職務時間と重なってしまうことから、どうしてもボランティアの方々の年齢層に限られる傾向にあり、人材の確保が限定的になってしまいがちである。

評価	B 評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校要望にできるだけ沿うかたちで支援はできている。しかしながら継続的な人材の確保を確実なものにするためにも、年齢層に限られることなく個人や団体とのつながりを図る必要があるが、その仕組みが不十分である。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか ボランティアの掘り起しを検討しながら、引き続き実施する。
----	--

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する

B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある

C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。

D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	地域人材の確保に努め、学校の教育活動の充実を図りたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	学校支援地域本部事業の充実だけでは学校、家庭、地域の連携は難しいのではないかと。地区懇などに働きかけてはどうか。
---------------	---